

# 安倍川中流大河内地区の振興と今後の茶産業の活性化の方策

静岡大学 地域創造学環 阿部ゼミ

指導教員：教授 阿部耕也

参加学生：久保山健太、中西花、土橋もも、岡本怜音  
矢五田萌加、北嶋泰成、金瀧芽生、菅野惇  
三浦真、中垣乃彩、齋藤しずく、中橋幸作

## 1 要約

静岡市葵区平野地区は良質な茶を生産してきており、地域の生業も茶栽培が主だったが、過疎・高齢化の進行とともに、茶価格の凋落により、茶産地としての基盤が揺るがされ、地域の誇りや活気が失われつつある。そうした現状を受け、地域の資源と課題を確認し、その活性化方策を検討するため、平野・有東木等の大河内地区、オクシズの各地域、菊川市・掛川市・島田市等で展開する事例を視察し、また平野地区自治会長、大河内小中学校の先生方、国交省静岡河川事務所等に聞き取り調査を行った。地域の資源は自然環境や産業に加え、神社や信仰・お祭りなど次世代に伝えるべき歴史・文化資源も数多く、また地域に根差し、地域住民との交流をもとに探究学習を展開している小中学校の取り組みや教育環境も、活性化を考える一助となりうるということがわかった。そうした平野地区の資源・特性を生かした地域活性化策を提言した。

## 2 研究の目的

安倍川中流大河内地区の平野は、傾斜地を利用した茶栽培を中心に生計を立てていたが、近年、過疎・高齢化の進行ならびに茶価格の凋落により、茶産地としての基盤が危機的な状況となっている。平野地区の茶の品質は優れたものであるため、茶栽培を継続し、最低限の産地としての形を維持していくことが望まれている。生業としての茶業としては厳しい環境下ではあるが、平野地区を支え地域のアイデンティティでもある茶の生産を継続し、地域の資源・特性を生かしながら、茶産地の自然環境や立地特性・歴史的文化的資源、地域と学校が支えあう教育環境を生かした総合的な活性化策を提言し、地域の誇りを醸成することを目的とする。

## 3 研究の内容

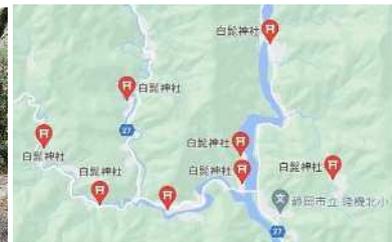
ゼミ学生は伊豆半島賀茂地域や浜松市天竜区など県内でも特に過疎化・高齢化が進行する地域でフィールドワークを行ってきており、街歩きや住民への聞き取り、イベントの企画等の取り組みをしてきた。平野・大河内地区の各所を歩いて地域の資源と課題、様々な取り組みを確認するとともに、聞き取り調査を行った。

### (1) 白髭神社に関する聞き取り調査

街歩きではまず白髭神社に注目した。古くからの集落には神社があり地域の要となっていることが多いが、平野・大河内を含む安倍川流域には白髭神社が数多く分布している。この点に関する調査が国交省静岡河川事務所によって行われたことを知り<sup>1</sup>、担当された当時の調査課課長・細野貴司氏にて聞き取り調査を行い、下記の事柄を学んだ。



平野白髭神社と津島神社



白髭神社の分布 (GoogleMap)

- ・白髭神社は全国に268社あり、太平洋側の海・川沿いの水害常襲地域に分布していること。そのうち静岡県内には全国最多タイの64社、うち41社が安倍川流域に集中していること。
- ・柳田国男は白髭信仰を「主として水辺の神」としているが、建立の時代も水害が多発した江戸時代中～後期であり、安倍川流域で水害から人命や田畑を守ってくれる神として信仰されたと考えられること。
- ・白髭神社は水の恵みをもたらし、水害から村を守ってくれる神として勧請され、今も続く祭や儀礼を通し、茶業・林業やかつて行われていた舟運業を支え、かつ防災意識を次世代につなげる地域の精神的柱となっていること。そのことによって、安倍川流域の各地域を結び、祭祀の伝播や課題意識を共有し、連携するための神社間ネットワークを形成していること。

## (2) 平野地区自治会長への聞き取り調査

地域の現状や課題、取り組み事例を確認するため、平野地区自治会・大村兼光会長に聞き取り調査を行った。大村会長からはおよそ以下のようなお話をうかがい、地域の活性化に関する示唆をいただいた。

- ・茶業と後継者：昔からお茶が主産業で、最盛期はお茶を1年に五番茶まで作っていた。その後お茶づくりは下火になって、品質が良くブランドとなっている本山茶の産地でも子どもに引き継いでもらうのは難しいと思っている人がほとんどである。
- ・神社、お祭り：平野では4年に1回大祭がある。神社の祭典時は毎年7月に花火大会を開催し、街に出てる人がその日をねらって帰ってくる祭となっている。
- ・地域への流入と流出：茶業は難しくなったが、街に通える範囲なので出ていく若者が奥の中山間地ほど多くない。だから逆に欲がなくダメなら勤めに出ればいいと、それほど執着心がない。百軒ほどあった家が今は55軒と少なくなっている。ただ通勤圏なので、空き家バンク等で2、3軒は入ってくる。調査をしてみると空き家は15軒ほどあった。半数以上は時々手入れのため帰ってきており、別荘的に使っている人もいる。先祖代々という気持ちはあるし手放すという決断は難しい。
- ・移住者、Uターン者について：大村商店は三代続く豆腐屋さんだがUターンして継いでおり、地域活性化に熱心で自治会副会長をしている。逆にそういう人の方が地元のことを考えてくれている気がして、刺激を受けている。
- ・地域の記憶：昔の平野のこと、報徳社の活動などは自治会長の自分にもよくわからない。もっと上の代に今のうちに聞いておかないとわからなくなるかもしれない。

## (3) 大河内小中学校ヒアリング調査

大河内小中学校は全校19名の小中一貫教育推進の学校である。地域の中での位置づけや取り組みについて澤本校長先生、教務主任・佐々木先生に聞き取り調査への協力と学校の取り組みに関する紹介をいただいた。概要は以下の通りである。

○生徒の構成：(中学部)全5人。平野地区出身1人、東京からの移住者2人、籠上地区2人

○総合／探究の時間：生活科と総合的な学習の時間・探究学習を重視しており、大河内フロンティアタイム(OFT)と呼んでいる。地域が好きになることで自己肯定感を高めることを目指し授業を実施している。

・小学部1・2年生：地区のお店調べ、3・4年生：水路について、5・6年生：砂防堰堤、中学部：個別テーマ(真富士山、バスツアー、歴史、白髭神社、大河内の鳥等)

・取り組みの成果を文化発表会での発表(保護者・地域住民参加)

○地域との連携

・「お茶のよさを知ってもらいたい」という地域の方の思いもあり、校内にある茶園の手伝いやお茶のマルシェ等を地元の茶農家にやってもらった。運動会は地区の方と一緒にいき、コロナ前は卒業生も来てくれた。以前は、アマゴの養殖やわさびの勉強を学校で行った。また、梅ヶ島や玉川子ども達と対面・リモートで交流している。地域の方は協力的で、児童・生徒の名前をみんな知っている。

## (4) その他の視察地

静岡市清水区(茶事変・豊好園「天空の茶の間」、Green 8等)、菊川市(せんがまち棚田倶楽部、菊川市民協働センター)、島田市川根町笹間(山村都市交流センター、サスイチ復元プロジェクト)の取り組み事例を視察した。



OFT取り組み事例

## 4 研究の成果

### (1) 当初の計画

A. 真富士山や安倍川などの自然環境と茶畑の景観、文化財である大村家、白髭神社とその関連行事などの歴史・文化も含めた地域の魅力を農業、観光、移住、教育につなげる地域活性化策を検討し、具体的な仕掛けやプログラムを作成する。

B. 中心市街地やオクシズ他地域とのネットワークづくりを進め、すでに活動を展開している組織・団体との連携・協働をはかる。

C. 企画した仕掛けやプログラムの試行を行い、小中学生を含めた多世代の地域住民や観光業者

を集めた成果報告会を開催し、参加者からの評価をもとにPDCAサイクルを回して提案をブラッシュアップする。

## (2) 実際の内容

前項当初の計画A案はほぼ予定通りだったが、新型コロナ禍が終息しないこともあり計画案Bについては一部修正、計画案Cについて中止となった。

## (3) 実績・成果と課題

街歩き、取り組み事例の視察、関係者への聞き取り調査によって再確認できた課題や可能性を検討し、次項5で示す提言・具体策を考えた。ゼミ学生等地域推進事業の枠とは別に、大河内小中学校等と連携しながら進めていく予定である。コロナ禍により関係者や連携相手とのやりとりや交流は制限されたが、静岡河川事務所との聞き取り調査で試したようにZOOM等を活用することにより、リモート・オンライン形式である程度は代用でき、また地域間の広がりにつなげる可能性も感じた。

## (4) 今後の改善点や対策

リモート・オンライン形式での交流と現地での対面状況の交流を併用することにより、地域の各主体と大学・企業等による交流のプラットフォームをつくりながら取り組みを継続・発展させることが重要である。

# 5 課題提出者・地域への提言

平野地区、大河内地区あるいはお茶を使った活性化を行っている地域や店舗を視察し、自治会長さん、大河内小中学校の先生方へのヒアリング、ならびに国土交通省静岡河川事務所の方々の報告とヒアリング結果を参考に検討した提案を述べる。

## (1) 大河内フロンティアタイムとの連携「OFTONプロジェクト」

大河内小中学校では生活科および総合的な学習（探究）の時間に力を入れ、児童・生徒も素晴らしい活動成果をあげている。テーマも「ふだんの暮らしをシェアせよ～大河内のお年寄りがくらしやすいまちにしよう～」「大河内の自然と伝統」「大河内の観光スポットをバスで巡る旅」「大河内を盛り上げる ご当地キャラクターを作ろう」「大河内、過疎化脱出～イベント」等、地域に密着したテーマとなっており活性化につながる取り組みとなっている。指導する先生方も、地域の方々をはじめ多くの外部人材に協力を求め、広がりをもった取り組みにしている。

こうした取り組みに大学（学生、教職員）も関わり、大河内地区に関心と関わりを持つ丸福製茶株式会社等の企業や団体をもつなぐ。OFTでお茶の栽培・茶摘み体験をした後、製茶と実際の商品化の過程を製茶会社に行って体験し、新たな商品開発に子どもたちが関わるといった取り組みが考えられる。お茶に限らず、子どもたちによる大河内地区の観光ツアーの立案・実施等、OFTの追究テーマに合わせて様々なプログラムも企画できる。

OFT（大河内フロンティアタイム）に大学、企業等に属する地域外の人（Outsiders）も、児童・生徒を見守る近隣の人（Neighbors）も関わるという意味で、OFT+ON=OFTON（おふとん）というプロジェクト名とする。大河内小中学校の子どもたちが地域内外からの働きかけを受けながら育っていく、暖かい孵化の場・仕組みとなることを目指す。

## (2) レンタル Tea House（空き家+茶畑のセット貸し）

聞き取り調査にみるように、空き家と茶畑の担い手不足は平野地区の大きな課題である。茶畑支援策として茶畑オーナー制度や援農ボランティア等の仕組みが考えられる。茶畑オーナー制度は県内外でも実施されており、オーナーに出来上がったお茶を送るという形だけでなく、茶摘み体験や茶畑周辺を巡るツアーを提供する事例もある。ただ、こうした茶畑オーナー制度は茶農家への支援にはなっても、必ずしも担い手不足の解消につながらない。人手の問題と活性化につながる策としては、



せんがまち棚田倶楽部棚田等のオーナー制度やボランティアの仕組み（菊川市のせんがま치의棚田、松崎町の石部棚田、棚田再生プロジェクト清沢塾等）は放置棚田をボランティアベースで再生・復活させた取り組みであり参考になる。また農家と農業体験者がホスト・ゲストとなって比較的長期のボランティアを行う WWOOF という仕組みも参考になる。

ここで提案したいのは、空き家／半空き家（年に数日だけ家主が来る等）と茶畑をセットにして貸すという仕組みである（この場合、空き家と茶畑のオーナーが同じでなくてもよい）。徳島県神山町の「神山プロジェクト」は、移住者向けに空き家情報サイト（イン神山）を作って移住者を募るだけでなく、過疎化で欠けていく地域の機能を高めるため、ターゲットとなる仕事・技

能・意欲を持つ人に空き家を用意するという方法を取っている。担い手がなくなった茶畑でお茶を作る／手伝う意欲のある人に安く（あるいは無料で）空き家を貸し出す。また家主が年に一回、数日だけ帰ってくるような家を貸し、家のメンテナンスとお茶づくりをする人材をマッチングさせるという仕組みが考えられる。

自治会長が指摘されたように平野地区は市街地と中山間地の間、いわば中・中山間地であり、地域の活性化への意欲が高まりにくいというデメリットと市街地へのアクセスがしやすいというメリットの両面を持つ。勤め先が多い静岡市街や新幹線が停まる静岡駅に車なら30分ほどで行くことができ、お茶づくりをしながらではあるが、勤めを持ったまま自然環境のよい場所で一軒家に住むという選択肢が提供される。

静岡の中山間地には意外に多くの外国人が住んでいる。島田市笹間で空き家を買取り改修し、復元をめざしているシェリー・クラーク氏に話を聞いた。サスイチ復元プロジェクトを立ち上げ、地元の農家に手伝ってもらって笹間茶を出す茶屋・蛍やゲストハウス・カワセミを運営している。水産資源管理の研究者として働きながら、伝統行事の神楽の踊り手の練習もしているというクラークさんは、自然、文化、歴史、景観の宝庫としての中山間地の魅力を知り、また国内外の人に知ってほしいと発信もしている。こうした外国人を惹きつける魅力が平野にもあるのではないか。



笹間のシェリー・クラークさん

### (3) 大河内の自然・文化・歴史を活かした商品・観光開発

静岡河川事務所による安倍川流域の白髭神社調査にみるように、大河内には様々な歴史・文化資源もある。白髭神社は水と交通を司る神を祀り水害への対処、交通の安全を祈願して流域に建立されたという背景を持つ。品質の高い本山茶、大河内のお茶に白髭神社をモチーフとしたデザインを施し云われを記し、水と交通の安全を祈るパッケージの白髭茶を作りたい。作物を作り、加工し、サービスするという農業の6次産業化が目指されているが、ストーリーや云われ、学術的価値など付加価値をつけた商品開発を試みたい。オクシズに41社ある白髭神社を巡るマップ作成や御朱印ツアーなどが考えられる。視察したGREEN 8 CAFEでは店舗（茶工場兼カフェ）から茶畑まで歩く距離・時間をも商品化していたが、平野地区を歩いて回り、お茶畑や集落の風景を眺めながら、お茶や食べ物を楽しめる場所・お茶テラスがつくる等が考えられる。平野地区の可能性は大きいと感じた。



清水区「Green8 Cafe」

茶畑テラスのイメージ



## 6 課題提出者・地域からの評価

今回、学生の皆さんに初めて地域に入らせていただきました。慣れない地域活動で、大変だったと思います。厚く感謝申し上げます。

学生さんの新たな発想は新鮮で、小中学校での取組は、大河内地区に生まれた子供たちが地域を見直し、ふるさとに誇りを持てる未来を感じさせる内容です。このような取組を通じて、当社としては、当地域の茶業の継続の将来性を次世代に感じていただければ、ありがたいと思います。

学生の皆さんが地域に入ってくださいることにより、地元に住む方々、一人ひとりが前向きになれるような仕掛けを具現化しながら、これまでの茶栽培（茶畑）とともに営まれてきたこの地域の生活を再構築していく必要を感じています。

まだまだこれからの展開で時間のかかる取組になると思いますが、今後、少しずつ実現に向け、一緒に頑張っていただけることを期待します。

(丸福製茶(株)会社)

<sup>1</sup> 国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所調査課『「土地の守護神か？」安倍川流域に多い白髭さん』2017